

プレスリリース

パリ、2022年5月31日

ヴィラ九条山 新館長就任のお知らせ



このたび、アンスティチュ・フランセおよびアンスティチュ・フランセ日本は、2022年9月1日付で京都・ヴィラ九条山の館長にアデル・フレモル（Adèle Fremolle）が就任することが決定しましたのでお知らせします。

ソルボンヌ大学で美術史、およびパリ・ドーフィンヌ大学で経営学の学位を取得後、アデル・フレモルはアルル国際写真フェスティバル、ヒルティ財団（パリ、マドリード）、ケ・ブランリ美術館、ダンケルク市グラン・ラルジュ現代アート美術館、ルーベ市ラ・コンディション・ピュブリック事業団などで16年間、文化機関の業務に従事してきました。展覧会プロデュース、アーティスト支援、施設戦略などを得意とし、過去に手がけたさまざまなプロジェクトにおいて、関係する地元との強い絆をベースに、異なる文化を融合させてきました。2006年にはアルル国際写真フェスティバル事務局員、またグラン・パレで開催された「海に沈むエジプトの秘宝展」のコーディネーターを務めまし

連絡先

オリヴィエ・フロモン

PR・マーケティング担当官 /

統括マネージャー

olivier.fromont@institutfrancais.jp

03-5798-6008

アンスティチュ・フランセ日本

た。2007年と2009年には、ケ・ブランリ美術館の写真ビエンナーレ「フォトケ Photoquai」展を担当し、2008年には「海に沈むエジプトの秘宝展」マドリード会場の総合コーディネーターを務めました。ダンケルク市グラン・ラルジュ現代アート美術館副館長を務めた2011年から2019年には、同施設の改革と、既存の産業遺産を建築に生かすフランスの建築家ユニットであるラカトン&ヴァッサルの同施設再開発プロジェクト実現に貢献しました。2019年にはルーベ市ラ・コンディション・ピュブリック事業団に代表理事として着任し、このクリエイティブで多分野的な事業団の発展を推し進め、その運営に尽力しました。

アデル・フレモルは、2017年から2022年にヴィラ九条山館長を務めたシャルロット・フーシェ＝イシイの後任となります。

1992年、建築家・加藤邦男が京都の東山に建てたヴィラ九条山は、フランスの国外文化施設の中でも最も名高いアーティスト・イン・レジデンスの1つです。日本における日仏交流の象徴としても存在感を確立しており、工芸からデジタルクリエイションまで、現代のさまざまな創作分野において日本との関わりを持ちながらプロジェクトを展開するアーティストたちを、30年にわたり迎え入れ続けています。

2014年からは、主要メセナであるベタンクールシュエーラー財団の支援を受けています。

ヴィラ九条山は、2022年に設立30周年を迎えます。

ベタンクールシュエーラー財団

「才能に翼を与える」

ベタンクールシュエーラー財団は一族による、その創設時から公益性を重視した財団であり、フランスの発展と威信に寄与するため、「才能に翼を与える」活動を展開しています。

その本領を発揮するため、財団は生命科学、芸術、社会的分野という、公益に貢献する三つの分野において、明日の世界を創造する人々を選び、支援・サポートしています。

社会的責任を目標とする精神に従って、多くの賞を与え、寄付を行い、それぞれのプロジェクトに沿ったサポートや広報活動を提供し、共同の取り組みも行います。

1987年の創設以来、620名の受賞者の、そして各種団体、協会、施設、組織による1000もの企画を支援してきました。



アンスティチュ・フランセとは

アンスティチュ・フランセは、フランス国外での文化活動を担当する公的機関です。フランスのヨーロッパ・外務省および文化省の監督のもと、精力的な外交活動を推進しています。そのプロジェクトやプログラムは、世界中に展開するフランス大使館文化部、アンスティチュ・フランセ、アリアンス・フランセーズの幅広い文化的ネットワークに支えられ実現しています。